

献 辞

学 長 神 木 哲 男

商学博士・小西一正先生には、平成13年3月、停年により本学を退官されたが、昭和38年4月、本学の前身である奈良県立短期大学助手にご就任以来、37年の長きにわたって本学の研究・教育の発展に尽くされた。

先生は、昭和9年5月4日、奈良県でお生れになり、昭和33年関西大学商学部商学科をご卒業後、奈良県立奈良商工高等学校教諭などをつとめられ、昭和36年4月関西大学大学院経済学研究科修士課程にご入学、昭和38年4月本学の前身である奈良県立短期大学の助手に就任された。昭和39年3月、関西大学大学院経済学研究科修士課程を修了され、同年4月同短期大学講師、昭和42年6月助教授、昭和55年4月教授に就任された。この間、神戸大学大学院経営学研究科に公立大学研修員として、イリノイ大学に客員研究員として籍をおかれ研究に従事された。また昭和61年4月から平成2年3月まで同短期大学付属図書館長を務められた。平成2年2月には、「短期大学の発展に尽くした功績」により文部大臣表彰を受けておられる。

平成4年4月同短期大学の4年制奈良県立商科大学への移行と同時に同大学教授に就任されるとともに、同大学学生部長を平成10年3月まで6年間にわたって務められた。

先生のご専門は、簿記・会計学であるが、そのご業績はきわめて多岐にわたっている。特に、先生の畢生の研究テーマである「内部統制」については、夙に学界での第一人者として広く内外に知られ、御労作『内部統制の理論』（中央経済社、平成8年）で、母校関西大学より商学博士号を授与されておられる。また、この他にも、「アメリカのコミュニティ・カレッジ」についてのご研究や、わが国の「地方自治体監査」についてのご研究にも早くから取り組んでおられ、それぞれその先進性より学界・社会に多大な影響を及ぼされている。

学会活動としては、日本会計研究学会や日本監査研究学会を主な活動の舞台として、両学会の特別委員などを歴任され、とくに昭和61年6月から63年6月まで日本監査研究学会の理事を務められ、斯界の発展に尽くされた。

社会活動もまた多岐にわたっている。奈良県固定資産評価審議会委員および会長、奈良県消費生活審議会委員および副会長、奈良県大規模小売店舗審議会委員および会長、奈良県大規模小売店舗立地審議会委員及び会長、大学設置審議会専門委員会委員、平成10～12年度公認会計士第2次試験委員などを歴任され、その深い専門的学識によって多方面にわたって社会貢献を果たされた。

先生は、教育にもきわめて熱心で、きめ細かな研究指導を通じて、公認会計士・税理士・簿記会計研究者をはじめ金融証券界で活躍する多くの卒業生を世に送り出してこられた。

本学が昭和28年に短期大学として創立されてから今年で48年になるが、先生は、その4分の3以上の年月を本学とともに歩んでこられたことになる。その意味で、先生は本学の歴史そのものであり、本学がここまで発展してきたことに対する先生のご貢献を改めて思わざるをえない。

本学は、先生の大学・学界・社会に対する多大のご貢献を讃え、感謝の微意を表すため先生に本学名誉教授の称号をお贈りした。

先生が、いつまでもご壮健で、ますますご活躍されることを心からお祈りしたい。